

平成31年第1回定例会（3月）一般質問

（1）全ての町民高校生を対象にした教育環境支援について

○ 議員 宮下 裕美子 まずは、上坂町長と古谷教育長に今回私が一般質問をする機会は補欠選挙で任期4カ月としては、最初で最後の機会になります。この2年半、傍聴席から上坂町政を見てきたわけですが、こうして一般質問できるということに対して考え深く思っています。お互いに真摯に向き合ってより深い議論ができ、町政に役立つ一般質問になることを願っています。どうぞ宜しくお願いいたします。

それでは、通告書に従って一般質問を始めていきます。最初の質問は、全ての町民高校生を対象にした教育環境の支援についてです。昨日の大釜議員の一般質問、月形高校支援について2つのことが明らかになりました。1つは、月形高校の「地域連携特例校」という制度適用が見えてきたことです。具体的に言えば、月形高校の本年度の入学人数が20人を切る状況であるということと、今後、高校生となる町内中学生、小学生の1学年の人数が概ね15人以下であるということ。さらに「地域連携特例校」を適用する場合の具体的な条件が厳しいということです。個人的な感想を言えば、「地域連携特例校」になった場合、高校存続の最低必要人数が1学年10人とハードルが下がる一方で、地元中学校からの進学率が50%以上という条件はむしろ強化されたように感じました。もう一つ、明らかになったのは、月形高校の特色づくりとして、すでに特別支援教育的な取り組みがなされているということです。月形高校は1間口になって教員数が削減されました。そういった状況でより一層多様な生徒が集まる学校になっているということは、大学進学を目指している子どもたちや専門性を身に付けたい子どもたちにとっては、月形高校進学の特長が薄くなっているように感じます。実際、町外の進学校とは使用する教科書が違いますし、正規の授業時間に十分な受験勉強ができないのは、3年間という限られた高校生活の中で不利になるのではないかと感じました。

さて、今回の私の一般質問は、全ての町民高校生を対象にした施策について、質問と提案を行います。現在の月形町では、月形高校生以外は町内に高

校生がいらないのではないかと思うほど、月形高校生に偏重した施策を展開しています。最も大きいのは金銭的な支援ですけれども、それだけでなく町内の様々な行事や施策で登場するのは、月形高校生や月形高校出身者ばかりです。例えば、上坂町長も出席された福祉フォーラムでのパネリストもそうでしたし、町長がよく講話で登場させる「月形が好きだ。」という高校生は、概ね月形高校の生徒の発言であります。また、広報で紹介されたり、各種表彰されるのもほぼ月形高校生になっています。もし私自身が町外に進学した高校生だとしたら、何となく故郷から放り出されたような心境になりますし、月形高校を選ばなかったために親に大きな経済的負担を強いることになり罪悪感を持ったでしょう。とは思っても、大人数の学校で切磋琢磨して学びたいし、専門的な知識を身に付けたいなど、私が求める月形高校では絶対に得られない、手に入らない、だから町外に進学するしかないと思って、長時間の通学もいとわずに進学を決める場合もあると思います。こういう子どもたちの決断を1人の人間の決断として尊重し、大人として同じ月形町民として支援することが必要なのではないかと考えます。数年前の月形高校ではできたことが今はできなくなっている、その現実を直視する時期にきているのではないのでしょうか。町長は常々「弱い人の立場に立って」とおっしゃっていますけれども、現状では町外に進学する高校生は全ての負担を背負い込まなければならず、一種の弱い立場になっていないのでしょうか。町長は昨日の我妻議員の農業支援の答弁で「一度、月形を出た人が戻って来るように」という施策をと言っていました。まさしく町外に進学した高校生が郷土への誇りと愛着を持って戻って来るようにするには、0か100かのような偏重した現状を多少なりとも改善し、月形町民であることを自覚できるくらいの応援と支援が必要ではないかと考えます。以上、説明したように今まさに全ての町民高校生を対象にした教育環境支援が必要であると考えます。まずはここまでについて、月形町の教育と月形高校支援を所管する教育委員会の長である教育長と町全体の施策に関わる町長に、この全ての町民高校生を対象にした教育環境支援について見解をお伺いします。

○ 議長 堀 広一 教育長。

○ 教育長 古谷 秀樹 私と町長に答弁を求められておりますので、初めに私の方から答弁をさせていただきたいと思っております。先ほどのご質問の中に、

昨日の大釜議員との質問を絡めておりましたが、特例校の取り扱いについて少し誤解のあるところがあるかと思えますけれども、今日の通告ではそういうことではないということで、それについては、後ほど教育長室にでもお越しただいて、よくお話しをさせていただければと考えております。通告書の質問の要旨に沿う形で答弁をさせていただきたいと思えます。まず、「子どもたちは社会、地域の宝であり、その子どもたち一人ひとりが尊重される教育とそれを支える支援が必要である。」とございます。私もまったく議員と同感でございまして、今後もそうした気持ちをもって職務にあたりたいと考えております。次に「月形高校存続が至上命題の月形町では、月形高校生だけを優遇した教育支援を行っている。月形高校存続は行政課題であって、教育支援とは分けて考えるべきものではないのか」というご指摘でございます。ご案内のとおり、月形高校は昭和23年、空知農業高校、現在の岩見沢農業高校でございまして、その月形分校定時制課程農業科として開校したのが始まりでございます。その後、月形高校として独立、浦臼分校の設置、道立移管などさまざまな変遷を経て、昨年、開校70周年を迎えたところでございます。全盛期には全日制普通科3間口、定時制農業科1間口が設置され、これまで9,000人有余の卒業生を輩出し、農業を基幹とする本町の歴史と共に歩んでまいりましたが、少子化の影響により年々生徒数も減少し、間口も削減され現在に至ったところでございます。そうした状況を背景に、月高の存続を図るための生徒確保対策を目的として、平成9年9月に「月形町高校教育振興協議会」を設置し、通学助成事業をはじめとして各種事業の見直しを図りながらこの間助成していることはご案内のとおりであり、当時、危機感を持って先進的に事業に取り組まれた歴代の町長、教育長の発想と議員各位のご理解により、20年を経過してもなお月形高校が存続しているものと考えております。道内の生徒数もどんどん減少する中で、道内各地で閉校が相次ぐ中、それぞれの自治体が工夫をしながら、学校を維持するための努力をされているところでございます。本町の「人づくり振興事業」は、そのために特化した施策であるということは十分ご理解をいただいているものと思えますが、ご指摘のとおり月形高校生を優遇した支援と捉えられればそのとおりでございます。しかしながら、この間、町民の皆さまもこのことを十分周知、ご理解されている制度であると考えているところでございますし、そのことを踏まえた上で、進路を選択されているものと思うところでございます。次に「町外への進学が一つの選択肢になってい

る現状」以下のところでございますが、それぞれの生徒が将来の進路の実現のため、町外の進学校や職業学科あるいは高等専門学校を目指す生徒や部活動のために町外に出る生徒がいることは過去からのことでございます。さらに平成12年から高校の授業料が無償化されたことや各種の就学金制度が充実されたことなど、そうした状況も後押しとなっているものと考えます。そうした「すべての町民高校生に教育支援を」ということでございますが、一つ他町の例をお話しさせていただきますと、南幌町では南幌高校生への支援のほかに町外に通学する生徒に対し、バス代の一部助成を行っている聞いてございます。これはバス路線が限られていることから、学区内の他の高校への通学が不便であることなど特殊な事情も考慮してのこととあります。一方では、江別市内や北広島市内などへの通学が容易であり、進路選択の幅が確保できていることや、地元の生徒の進学率が低いなどの理由により、昨年の高校配置計画の中で平成33年度からの募集停止が発表されたところでございます。南幌町におきましても他校への通学が不便なことや小規模校の特色を訴え、地元の高校を残すための取り組みを続けられてきたと聞いておまして、非常に残念に思うところでもございます。一概には申し上げられませんが、仮に町外への進学者に対し、本町も同様の支援を行った時、少なからず地元の高校に対する影響が懸念される場所であると同時に、いま、昨日の答弁でも申し上げておりますけれども、ぎりぎりの状況の中でいかに学校を残すかということで努力する中で、学校が存続できなくなるとすると、まさに本末転倒なことであると考えてところでございます。本町が行っております他の支援について少し申し上げますと、平成29年度に札幌の高校に通学している生徒から、青少年健全育成基金助成の申請がございました。内容は、オーストラリアでの語学短期海外研修事業であり、語学のスキルアップのため現地でホームステイをしながら学校で学ぶ研修でございますが、基金の要綱、要領に基づき対象経費の4分の3を助成したところでございます。青少年健全育成基金は20歳以下のすべての青少年を対象として、ただ今申し上げました研修事業や国際交流事業、スポーツ活動などの支援を行っており、町民である限り町外に進学している高校生も同様に対象でございますから、そうした意味においては、まったく教育支援をしていないということではないこともご理解いただきたいと思っておりますし、これらの活用を議員からもPRしていただきたいと思うところでございます。最後に「郷土愛」のところでございます。本年の成人式には15名の出席がございました。議員

もご覧のとおりでございますが、この学年は19名の生徒でございましたけれども、月形高校に11名が進学し、岩見沢の高校に5名、札幌の高校に2名、さらに旭川高専に1名が進学しました。進学した学校は違っても、中学までともに過ごした仲間が郷土での成人式を楽しみに、遠くから駆けつけてくれ、久しぶりの再会をともに喜ぶ姿を議員もご覧になったところでございます。この中には町外の学校に進学し、現在、親元で農業を継いでいる方もいらっしゃるということで、大変うれしく感じているところでもございます。また、先日の道新に紹介されておりましたけれども、岩見沢農業高校を本年度卒業された女子生徒がサッカーの2級審判員を取得され、さらに上を目指し、将来は保育士となって月形で働きたいという記事が掲載されておりました。私は、こうした姿に郷土愛を感じるものであり、郷土愛は自らの進路を選択した時点において確立しているものと思うところでございます。また、月形高校の平成31年度の学校教育目標を紹介させていただきます。前後は省略いたしますけれども「近隣市町村からの生徒には月形を第2の故郷と感じ、月形を原点として自身のこれからの人生を切り拓いてもらいたいという思いから、月形町から世界を見据え、自らの意志で行動し、自他共に思いやりの心を持つ生徒」を「目指す生徒像」としたところでもございます。この教育目標の下、町外からの生徒にも第2の故郷としての月形をしっかりと育んで欲しいものと願うところでもございます。この後、町長からも答弁があると思いますが、町長から「全ての町民高校生に支援する」という決断があれば、教育長の立場としては大変ありがたいことでもございますけれども、今、申し上げた状況を踏まえると、私としては、そうした判断は難しいものではないかと考えるところでもございます。

○ 議長 堀 広一 町長。

○ 町長 上坂 隆一 お答えいたします。私は、他市町村から月形高校に通学する生徒も3年間、住民票のない月形の町民であり、地域の大切な宝であると思っています。彼らは少なからず月形の経済にも貢献してくれており、何より学校祭や球技大会等の学校行事や地域での就業体験等、元気な姿を見せてくれることが町に活気を与えてくれています。3月1日の卒業式のはなむけの言葉の時に、私は「24名中20名の人たちが月形町以外から通って来てくれました。3年間よく通って来てくれました。20名の皆さん、本当にお

めでとう、ありがとう。」と月形町出身の4名の皆さんも含めて、お祝いを申し述べました。そして「月形高校は、月形の大切な宝です。そして月形高校は月形の自慢です。卒業する24名の皆さんの故郷は月形です。いつでも帰って来てください。応援し続けます。」と挨拶させていただきました。この先、月形高校が無くなり、町に活気を与えてくれる月形高校生の姿が見られなくなるようなことは、絶対に避けなければならないものと考えるところであります。月形高校の存続は、まさに行政課題として捉えなければならないと思っています。これまで高校存続を目的として早くから支援を行ってきた、この取り組みは今後もしっかりと続けて行かなければならない。そして「月形高校廃止は絶対に許さない。反対である。」という月形町民の強い意志の表れであると思っています。従って、教育長からも答弁したとおり、月形高校への支援は月形高校存続のために特化した施策であり、今ここで町外へ進学する生徒にも支援を広げるという考えは持たないところであります。以上でございます。

○ 議長 堀 広一 宮下裕美子議員。

○ 議員 宮下 裕美子 今、教育長と町長から答弁をいただきました。ひとつ誤解のないようにしていただきたいのは、私は別に月形高校が無くなることを望んでいるわけでもないし、月形高校存続に対しては全くそのことに何か問題を指摘しているわけではないです。私の子どもたち2人も月形高校出身で、それこそ月形高校が母校として下の子は4年前に卒業していますし、そういう意味で、本当に月形高校があったことで教育の機会もただけて感謝していることは、ご理解いただきたいと思います。お二人の話を聞いてみると、やはり、行政課題と教育支援ということを一つに考えているのではないかと思います。私は、大人目線ではなくて子どもたちの側から考えた時にということで、大人目線で言えば、どうしても月高存続が必要ですし、他の所に支援をしてしまえば月形高校が無くなるかもしれないという意味では、他に支援はできないということも十分理解するわけですが、そうではなくて、子ども側から考えた時に月形高校に行けば単純に新年度予算での人づくり振興事業で1,400万円の予算が付いて、生徒数で割ると大体18万6,000円となり、それだけの予算が片や次ぎ込まれ、片やより負担が大きい町外に行くには月形一岩見沢バスターミナルの1カ月の定期が2万2,200円

もする状況の中で、それを払って学びたいと言っている人には、全然支援がないことに対する差を、その子どもたちはどのように受け止めるのか。先ほど教育長からも進路選択の段階で織り込み済みであるという話がありました。確かにそうだと思います。親もそういうふうと言うし、子どももそういうふうで理解している、それは、大人の事情であると思うのです。ほんの少しで良いから、どこに行く子どもに対しても高校進学例えばバス定期の一部、月高生は岩見沢から通ってくれば半分補助があるけれども、月形から行くならそういう意味では月校支援とは切り離して1割でもいいから補助することで「あなた方にもきちんと目配せしてるよ。」という姿勢があっても良いのではないかと。子ども側に自分が立って考えたら、そういうことができないのか。金額的にもそれほど大きな額の必要もないし、あるいは、今、中央バスに対して運行支援をしているその延長線上と考えてみんなが定期をきちんと買う。今は土日が使えない安い定期を買っている人もいますし、色々な方法で定期すら一生懸命買い替えたりしながら皆さん工夫しているところに、ほんの少しの支援をすることがどうしてできないのか。それは、まさしく子ども側にたった支援という意味で考えていただきたいと思っているのですけれども、いかがでしょうか。

- 議長 堀 広一 これは、教育長、町長の2人に答弁を求めますか。
- 議長 堀 広一 宮下裕美子議員。
- 議員 宮下 裕美子 はい。
- 議長 堀 広一 教育長。
- 教育長 古谷 秀樹 先ほど答弁しましたとおり、町長から「全ての町民高校生に支援する」という決断をしていただければ、教育長の立場としてはありがたいというお答えをさせていただいたところでございます。先ほども申し上げましたけれど、やはり、両方に同様の支援をしていくと片方がおかしくなるのではないかと考えてございます。そして、議員は先ほどから子どもの目線、大人目線と言われますが、2022年度には18歳が成年という捉え方をされるわけでありまして、高校1年生になったらその階段を上がっていくという意味では、大人であるという捉え方をしているところでございます。昨日の中学校の卒業式での3年生の答弁でしたが「これからは、み

んな離ればなれになるけれど、また、いつか会って一緒に語りたい。」ということもあって、これからは、それぞれが離ればなれになるという認識は持っていることも踏まえて進路選択しているものであると思います。また、再三申し上げますけれども、月形の補助を踏まえた中で選択されていると考えているところでございます。

○ 議長 堀 広一 町長。

○ 町長 上坂 隆一 先ほども述べましたように、今のところ子どもの目線にたっても、教育長とのこれまでの話も含めてただちに今議員がおっしゃっている10分の1でも良いから何らかの形で支援するというよりも、ソフト面でこれまでも高校生だけでなく小学生、中学生、高校生も含めて月形の大事な宝物であると思っていますので、いろんな形で子どもたちに夢と目標達成のための支援をしたいと思っています。また、子どもたちが月形のまちづくりや月形のためにそれぞれの立場でしっかりやってもらえるように取り組んでいきたい、そのように接していきたいと思っています。

○ 議長 堀 広一 宮下裕美子議員。

○ 議員 宮下 裕美子 今、教育長と町長から金銭的支援については、全く考えられないという意味の答弁があったので、非常に残念だなと。私の個人的な経験ですけれども、私が育った所から全く違う所に進学した時にほんの少しの支援があったことで、自分が生まれた町を忘れなかった。そういうことにつながりから、ずっとこの北海道に居たとしてもそういうことに思いはせられる、まさしくそれはふるさと納税とか色々な支援のちょっとしたつながりの中で、色々な事業が展開されているのと同じであると思うのです。今0か100かということではなくて100は100でいいから1、2という部分を少し考えていただけたらと思いました。先ほど町長が他の町から月高に来ている子たちに卒業式で「3年間よく通ったね。おめでとう。」と、おっしゃっていたのと同じように月形から他の町に通った子たちにもぜひそういう声掛けをしていただきたいし、折に触れ町内に高校生がたくさんいるのだから、そういう方たちも町内のまちづくりの中の一人として、そこにきちんと織り込む形の中で、月形は小・中・高だけではないということを、きちんと

制度や活動の中に含めていただけたらと思いました。1 問目は以上で終わりにします。